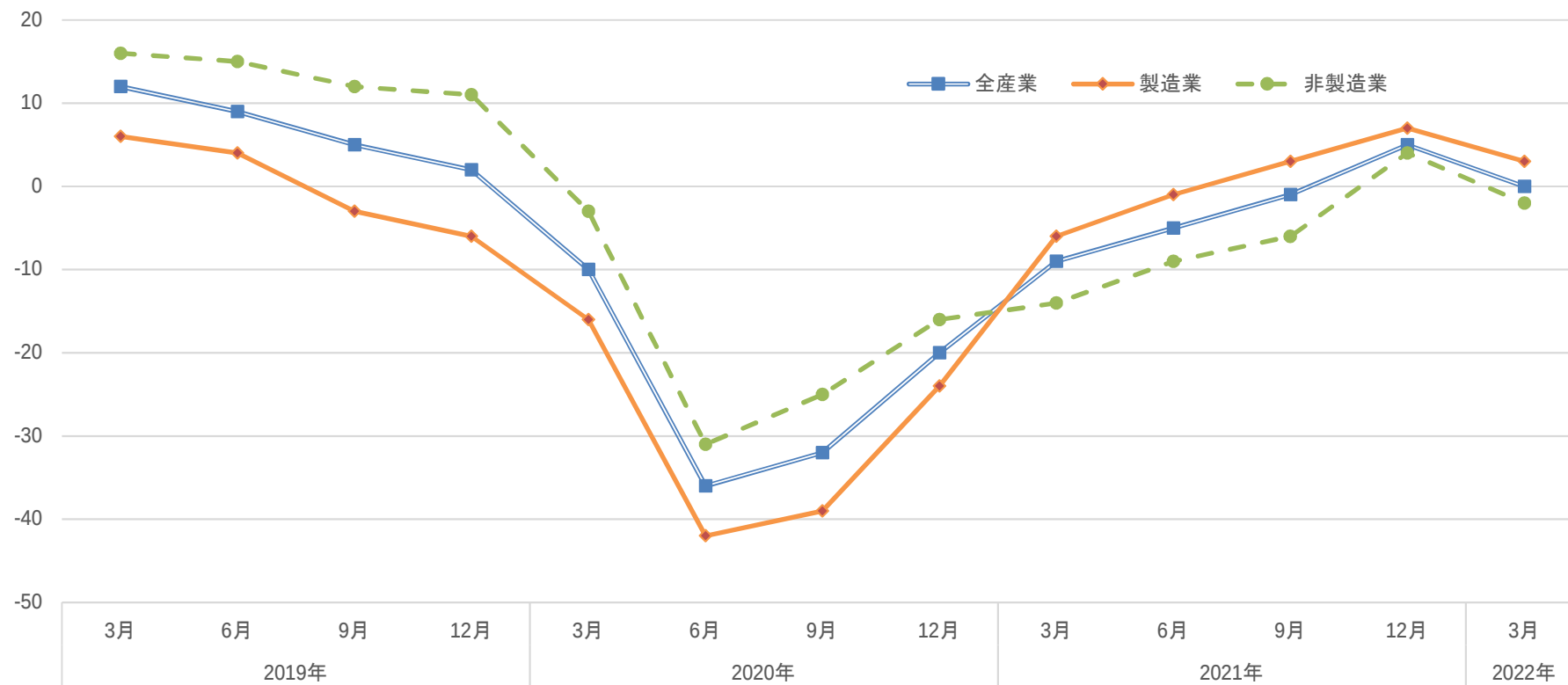


大阪都市魅力創造戦略関連施策 を取り巻く状況

業況判断DI（近畿）

- 〇 新型コロナウイルス感染症の影響を受けて企業の景況感（日銀短観 DI）は、**2020年3月から6月にかけて急速に落ち込んだ。**
- 〇 **2020年6月以降は緩やかな回復傾向にあるが、2022年3月見通しは再度下落するとの結果になっている。**

業況判断DI（近畿地区）

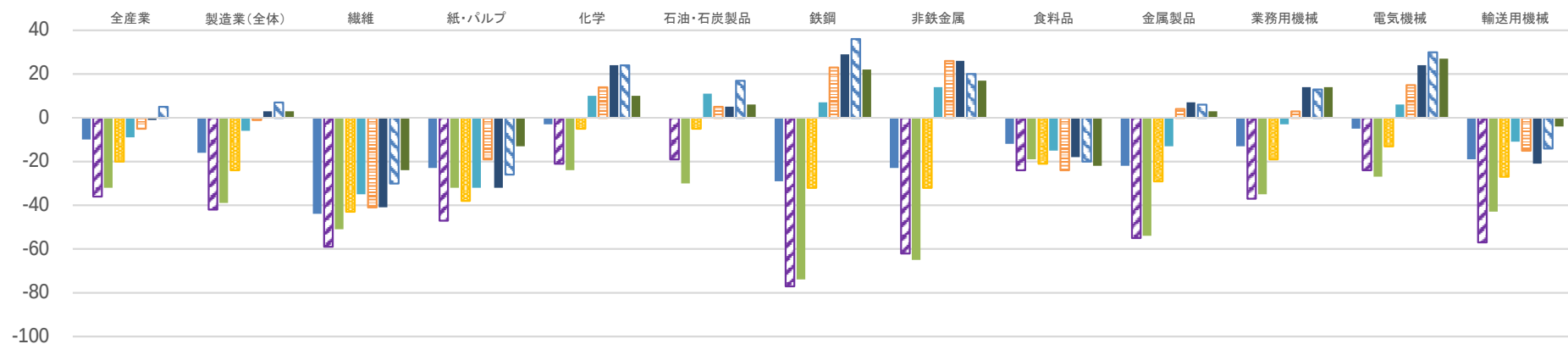


出典：日本銀行大阪支店「全国企業短期経済観測調査（近畿地区）」より作成
 ※2022年3月の数値は先行きDI

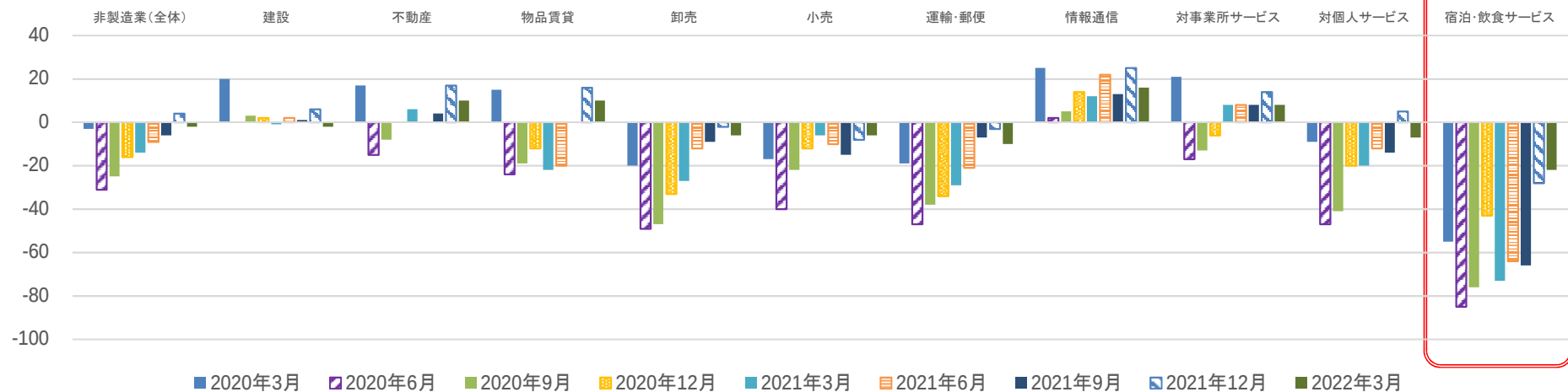
業種別DI（近畿）

- 近畿の景況感は、**2021年12月**にかけて全体的に持ち直しの傾向が見られる。
- しかし、宿泊・飲食サービスについては、依然として新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受けている。

業種別業況判断（近畿地区）〔全産業、製造業〕



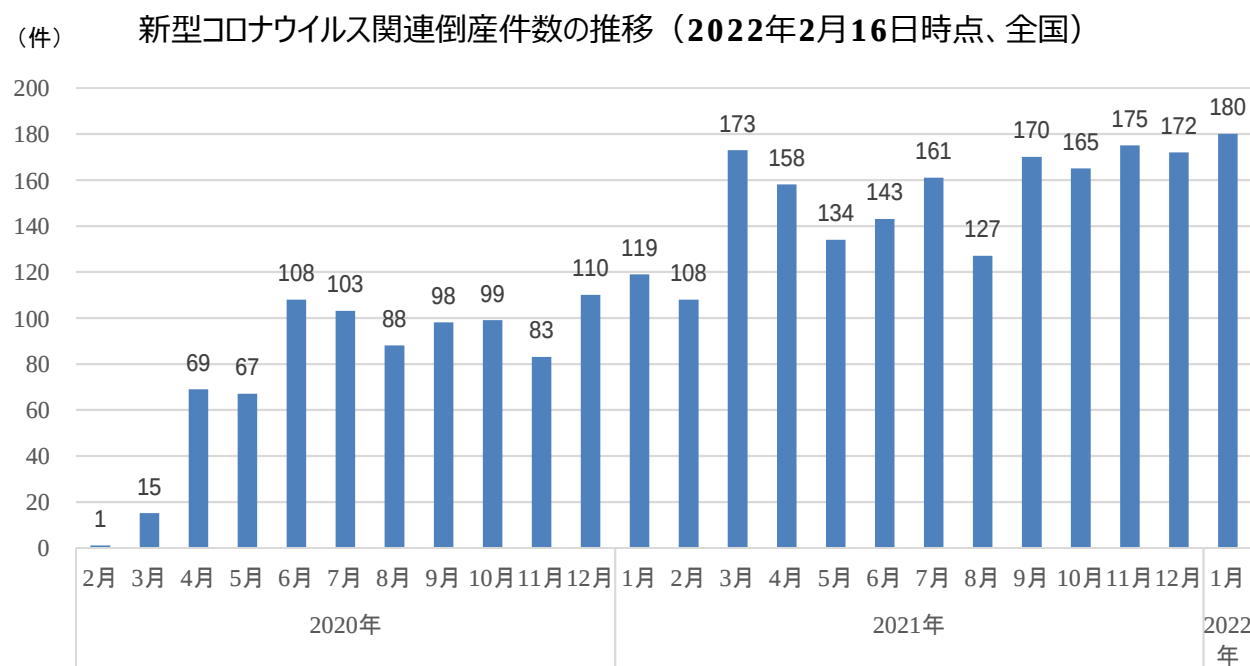
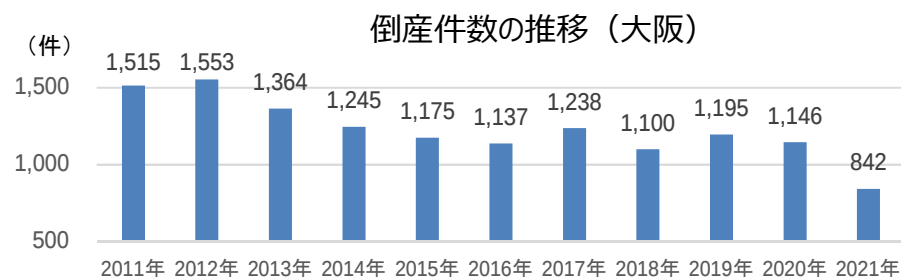
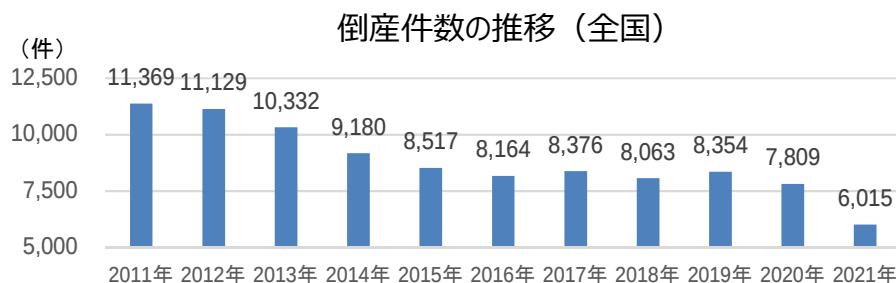
業種別業況判断（近畿地区）〔非製造業〕



出典：日本銀行大阪支店「全国企業短期経済観測調査（近畿地区）」より作成
※2022年3月の数値は先行きDI

倒産の動向（全国・大阪）

- 新型コロナウイルス感染症の拡大以降、実質無利子・無担保融資などの資金支援等により全体的な倒産件数は減少傾向。
- 一方、コロナ関連の倒産件数は増加傾向にあり、**2022年2月16日時点**で、全国で**2,854**件（自主的な廃業は含まれていない）。大阪の倒産件数は、**297**件であり、全国で2番目に高い水準。
- 業種別でみると、飲食店、食品卸、ホテル・旅館といった観光に関連する事業者の倒産が多い。



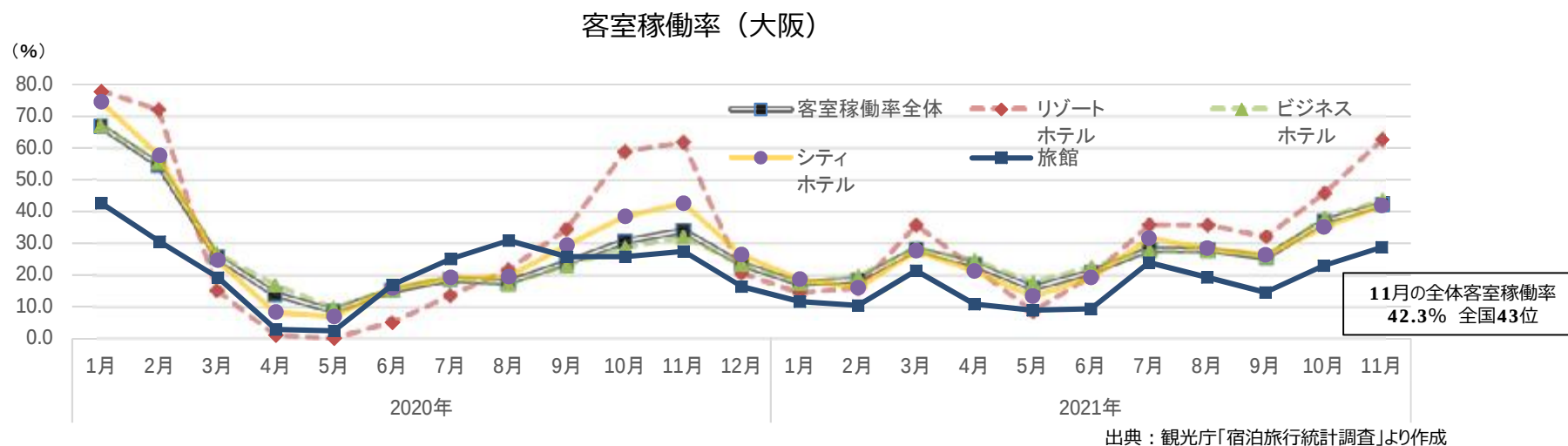
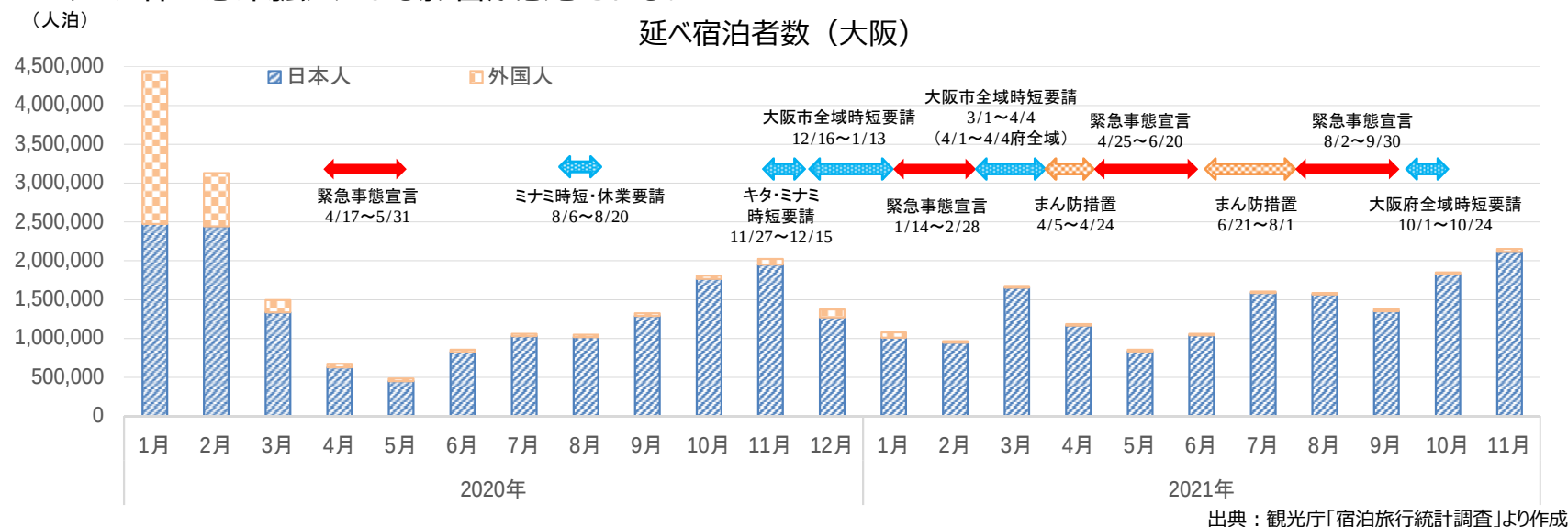
業種別コロナ関連倒産件数
（2022年2月16日時点累計、全国）

業種	件数	割合
飲食店	468	16.4%
建設・工事業	318	11.1%
食品卸	143	5.0%
ホテル・旅館	126	4.4%
アパレル・小売	113	4.0%
食品小売	103	3.6%
アパレル卸	77	2.7%
不動産	66	2.3%
食品製造	62	2.2%
自動車運送	50	1.8%

出典：帝国データバンク「全国企業倒産集計」、「新型コロナウイルス関連倒産」より作成

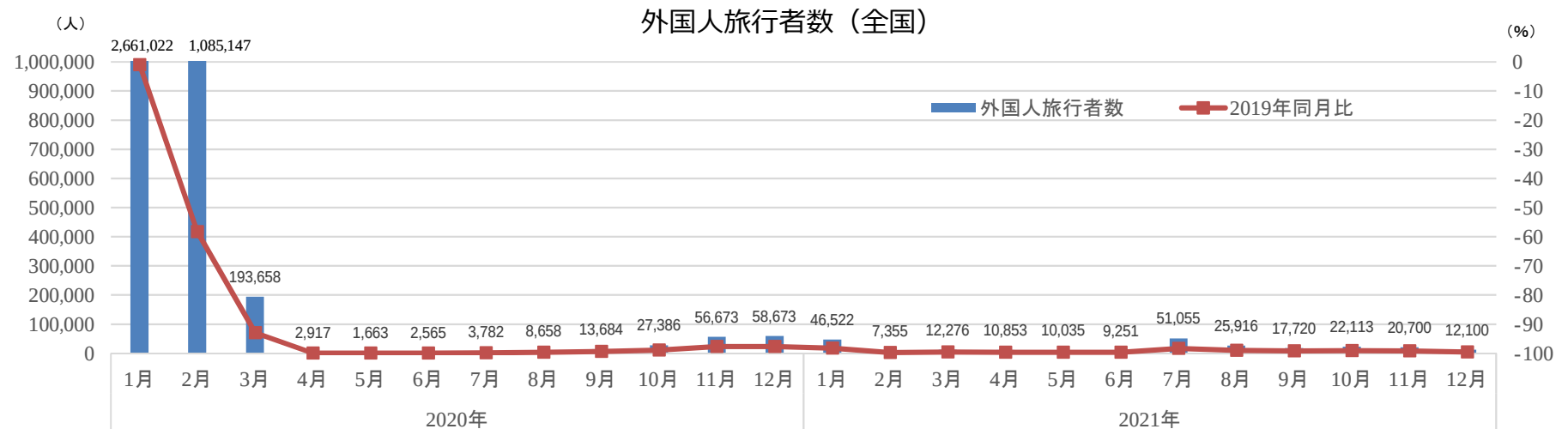
宿泊者数の状況（大阪）

- 〇 新型コロナウイルス感染症の拡大により宿泊者数、客室稼働率は激減。
- 〇 2020年7月以降、Go To トラベルキャンペーンなどにより回復傾向に向かったが、感染症の再拡大に伴い2020年12月以降減少。2021年1月以降、宿泊者数、客室稼働率とも、増減を繰り返しながら緩やかな回復傾向にあるが、オミクロン株の感染拡大による影響が懸念される。

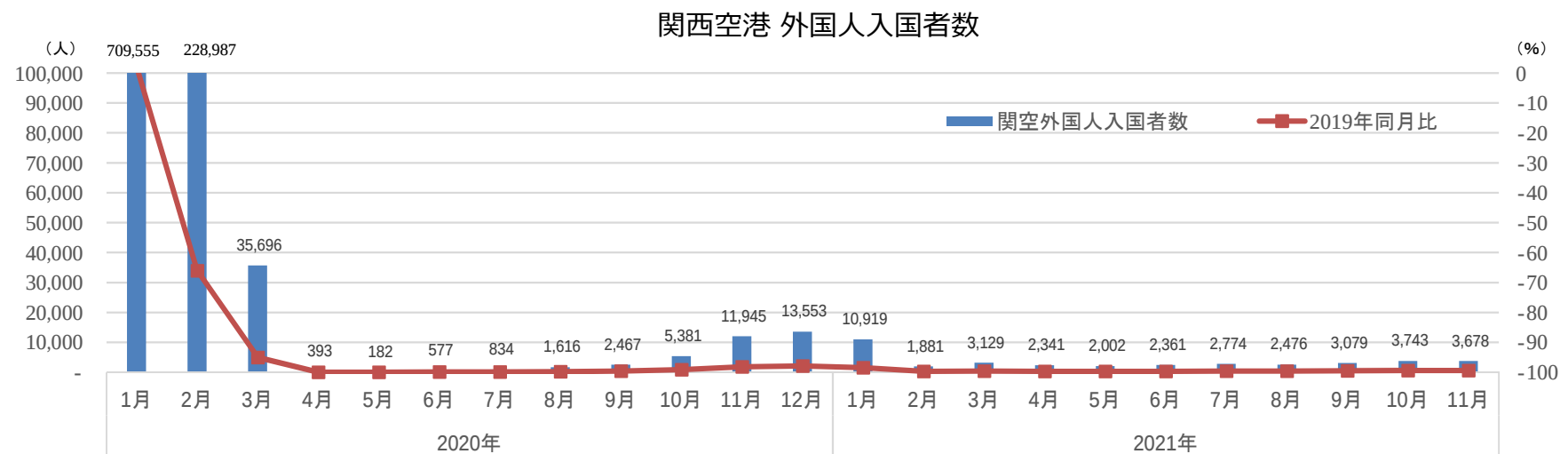


インバウンドの状況（全国・関西空港）

- 外国人旅行者数及び関西空港外国人入国者数は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う入国規制の影響により激減。
- 国際的な移動の制約が続き、2020年4月以降、インバウンド需要がほぼ消失。



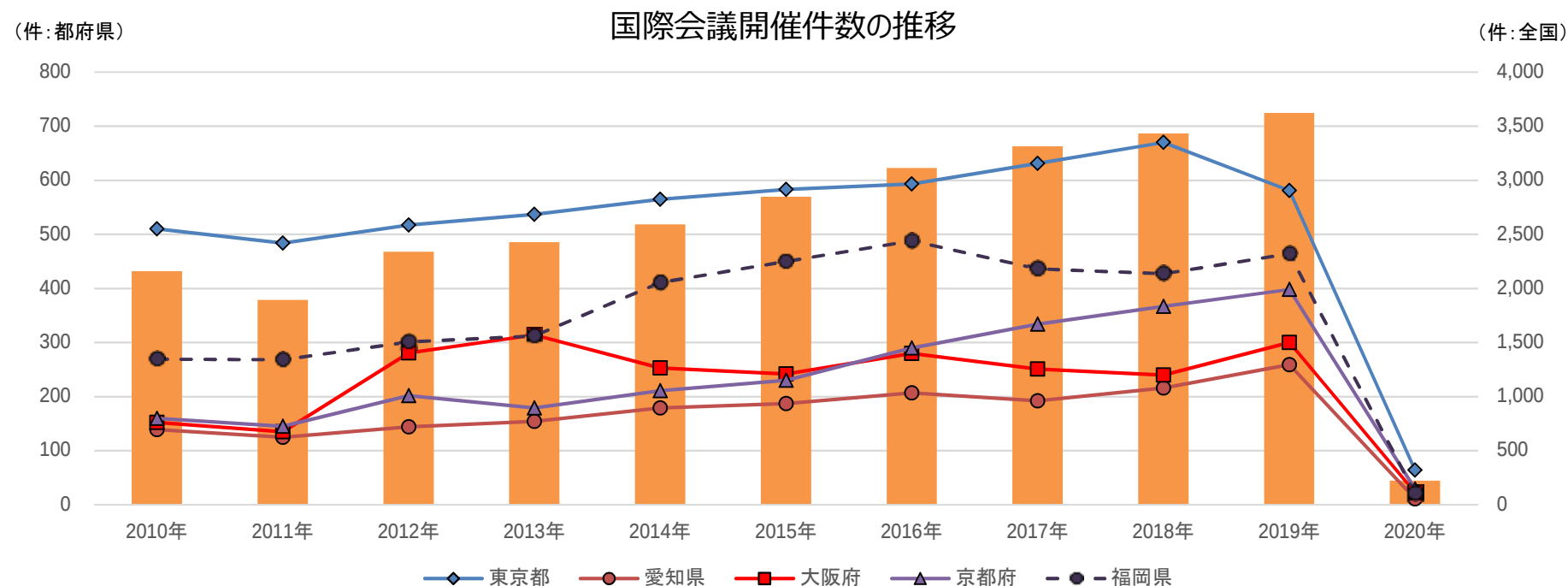
出典：日本政府観光局「訪日外客数」より作成
※2021年11月以降は推計値



出典：出入国在留管理庁「出入国管理統計」より作成

国際会議の開催件数（全国・国内主要都市）

○ 新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年の大阪における国際会議の開催件数は前年より大幅に減少し23件であった。



	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
東京都	510	484	517	537	565	583	593	631	670	581	64
愛知県	139	125	144	154	179	187	207	192	216	259	11
大阪府	152	135	281	314	253	242	280	251	240	300	23
京都府	160	145	202	179	211	230	290	334	367	398	29
福岡県	269	268	301	312	411	450	488	436	427	464	21
全国	2,159	1,892	2,337	2,427	2,590	2,847	3,112	3,313	3,433	3,621	222

出典：日本政府観光局（JNTO）「国際会議統計」より作成

世界における国際会議の開催状況（月別）

- 2020年（令和2年）は、新型コロナウイルス感染症の影響により、世界における国際会議の多くが延期となった。
- 一方、オンラインやオンラインと実地開催を組み合わせたハイブリッドといった、人の移動や密を回避する開催方法による会議が増加し、2月に4%であったオンラインとハイブリッドの割合が、12月には60%にまで増加した。

＜2020年に開催が予定されていた国際会議の件数と開催状況（月別）＞

月	影響なし	オンライン	ハイブリッド	延期	開催地変更	中止	合計
1月	143（97%）	—	—	4（3%）	—	1（1%）	148（2%）
2月	227（92%）	4（2%）	4（2%）	2（1%）	—	9（4%）	246（3%）
3月	123（29%）	67（16%）	3（1%）	108（25%）	2（0%）	121（29%）	424（5%）
4月	41（9%）	109（24%）	1（0%）	168（38%）	8（2%）	121（27%）	448（6%）
5月	63（8%）	184（24%）	—	341（44%）	11（1%）	168（22%）	767（10%）
6月	66（6%）	302（26%）	1（0%）	572（49%）	13（1%）	224（19%）	1,178（15%）
7月	21（3%）	237（33%）	3（0%）	346（49%）	8（1%）	95（13%）	710（9%）
8月	15（3%）	162（27%）	12（2%）	342（57%）	—	69（12%）	600（8%）
9月	20（2%）	396（33%）	34（3%）	622（52%）	6（1%）	115（10%）	1,193（15%）
10月	11（1%）	431（42%）	29（3%）	447（43%）	10（1%）	101（10%）	1,029（13%）
11月	14（2%）	358（46%）	34（4%）	289（37%）	3（0%）	75（10%）	776（10%）
12月	5（2%）	151（52%）	22（8%）	85（30%）	3（1%）	22（8%）	288（4%）
合計	749（10%）	2,401（31%）	143（2%）	3,326（43%）	67（1%）	1,121（14%）	7,807（100%）

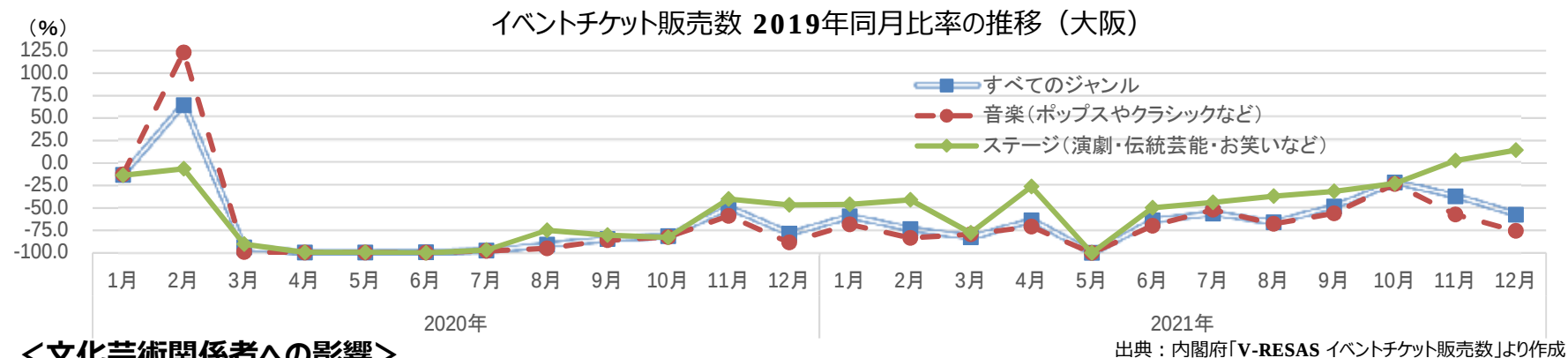
出典：国土交通省「令和3年版 観光白書」

※資料 ICCA（国際会議協会）「ICCA Statistics Report 2020」（2021年（令和3年）5月時点）に基づき、観光庁作成

※注1 構成比は、小数点第一位を四捨五入しているため、各構成比の合計は必ずしも100にならない。

文化芸術分野の状況

- 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う開催制限要請（人数上限や収容率等の設定）などの影響により、イベントの中止・延期などが相次いだ。
- 文化芸術関係者への調査によると、創作発表の機会が失われた、観客や顧客が戻ってこない、などの声が多い。



＜文化芸術関係者への影響＞

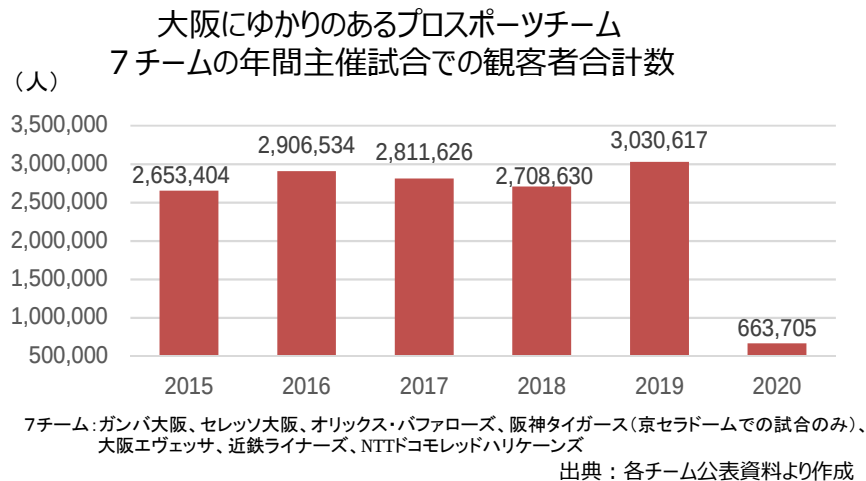
個人対象アンケート（現在困っていること）	2021年度調査	2020年度調査
創作発表の機会が失われたこと	75%	71%
創作発表の準備や稽古ができないこと	54%	50%
生計の見通しが立たないこと	44%	40%
活動の継続や再開に対する批判やクレームが不安なこと	43%	—
活動再開のタイミングや方法が分からないこと	42%	54%
創作発表の意欲が湧かないこと（メンタルヘルスの不調）	36%	29%
補償や給付金などの支援策がわからないこと	27%	19%
技能の研鑽や後進の指導ができないこと	26%	22%
支援策の申請書の書き方等が分からないこと	17%	9%
事務所・施設等の維持ができないこと	15%	8%
スタッフやアルバイト等に賃金を払えないこと	15%	5%
創作発表に関して相談ができないこと	10%	8%
経営に関する相談ができないこと	7%	4%
現在困っていることは特にない	2%	4%
その他	5%	4%

団体・事業所対象アンケート（現在困っていること）	2021年度調査	2020年度調査
観客や顧客が戻ってこないこと	71%	—
創作発表の機会が失われたこと	60%	65%
団体・事業所の活気が失われたこと	51%	30%
経営の見通しが立たないこと	46%	49%
創作発表をするための経費が確保できないこと	44%	—
創作発表の準備や稽古ができないこと	39%	43%
活動の継続や再開に対する批判やクレームが不安なこと	37%	—
活動再開のタイミングや方法が分からないこと	34%	55%
事務所・施設等の維持ができないこと	27%	20%
補償や給付金などの支援策がわからないこと	24%	15%
技能の研鑽や後進の指導ができないこと	19%	24%
雇用者に賃金を支払えないこと	16%	13%
経営に関する相談ができないこと	9%	9%
支援策の申請書の書き方等が分からないこと	7%	9%
創作発表に関して相談ができないこと	6%	8%
現在困っていることは特にない	3%	4%
その他	3%	6%

出典：大阪市「大阪における文化芸術関係者への新型コロナウイルスの影響に関する実態調査」（2021年9月）

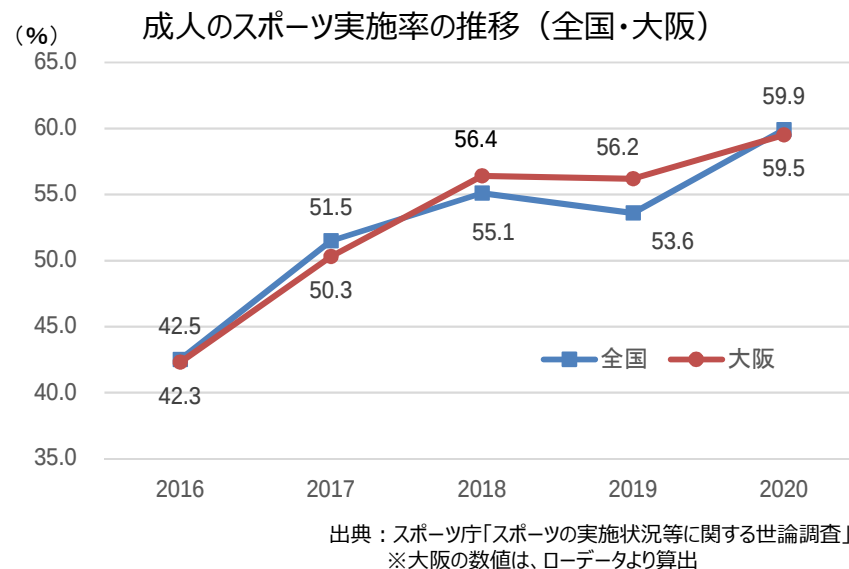
スポーツ観戦、実施の状況

- スポーツの試合や大会においても中止・延期や無観客開催などにより、スポーツを観戦する機会が減少している。
- 一方、成人のスポーツ実施率は増加している。増加理由として、「感染症対策による日常生活の変化」が最も多く、コロナ禍によって健康意識が高まっている傾向が見られる。



新型コロナウイルス感染症拡大前後の 種目別直接スポーツ観戦率(全国)	割合	
	2019年2月～ 2020年1月	2020年2月～ 2021年1月
1 プロ野球(NPB)	10.3%	5.1%
2 Jリーグ(J1、J2、J3)	3.6%	2.3%
3 マラソン・駅伝	2.6%	1.4%
4 大相撲	2.3%	1.3%
4 高校野球	3.0%	1.3%

出典: 笹川スポーツ財団「新型コロナウイルスによる運動・スポーツへの影響に関する全国調査」

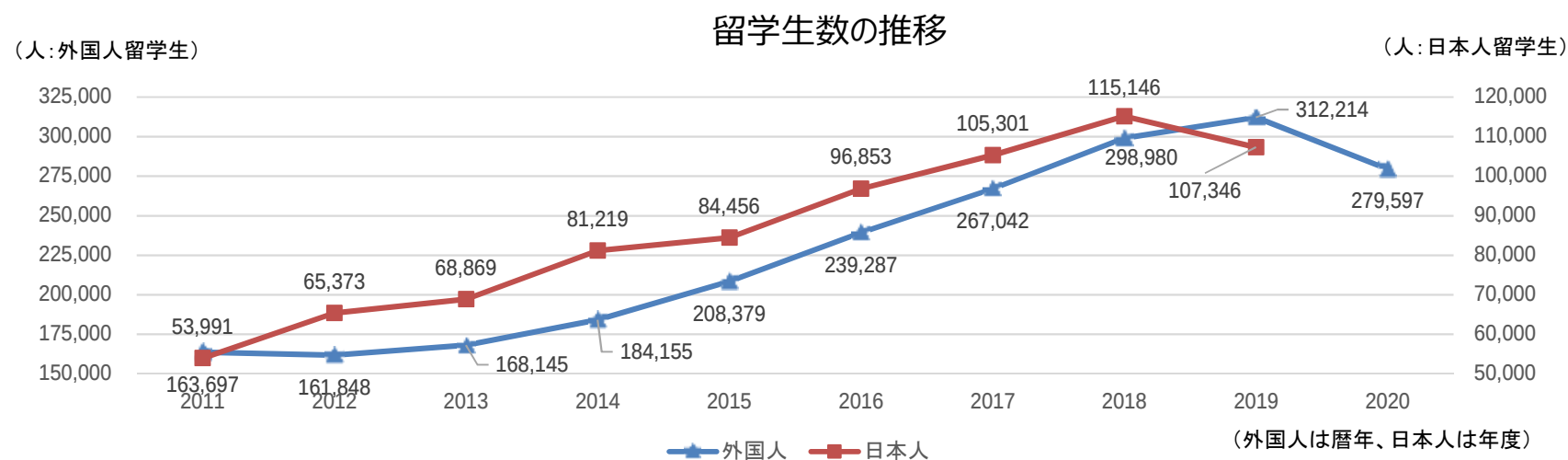
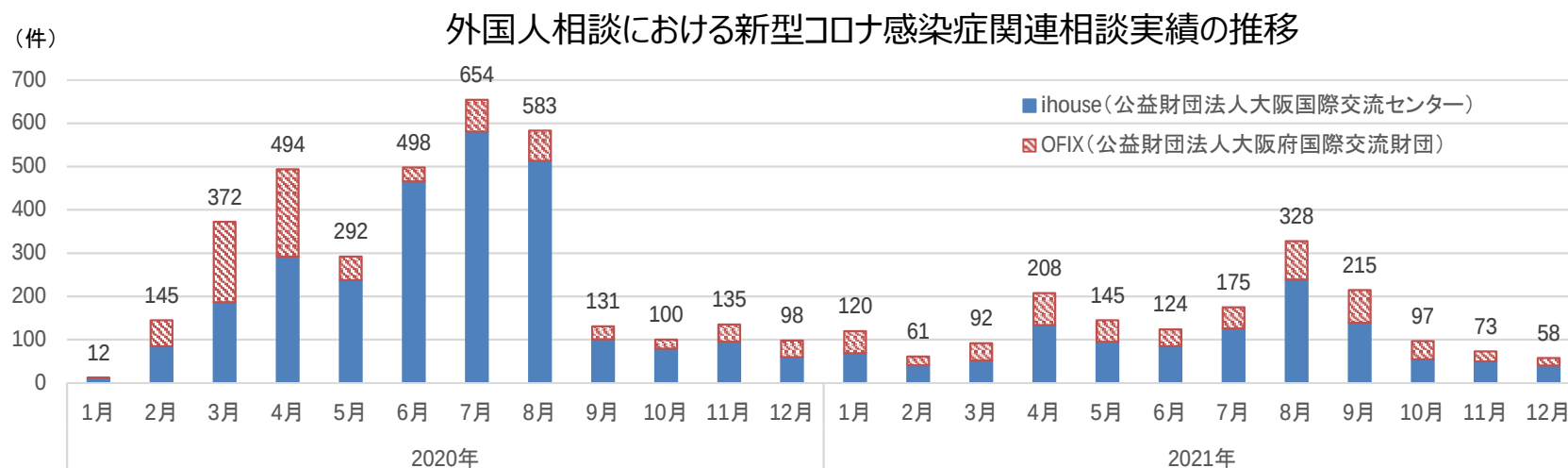


1年前と比べて運動・スポーツを実施する頻度が増えた理由(全国)	割合
コロナウイルス感染症対策による日常生活の変化	36.4%
仕事が忙しくなくなったから	27.0%
運動・スポーツが好きになったから	16.4%
健康になったから	13.5%
仲間ができたから	13.4%
家事・育児が忙しくなくなったから	10.6%
場所や施設ができたから	9.9%
お金に余裕ができたから	6.2%
指導者がいるようになったから	4.1%

出典: スポーツ庁「スポーツの実施状況等に関する世論調査」

外国人相談、留学生の状況

- 大阪府・市の外国人相談において、**2020年1月以降**、新型コロナウイルス感染症関連の相談が急増。
2021年4月～9月は、感染症の再拡大を受けて相談が増加。
- 新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大し、日本政府及び各国政府による渡航制限等の措置により、直近の留学生数は減少に転じている。



出典：日本学生支援機構「外国人留学生在籍状況調査」「日本人学生留学生状況調査」より作成

(参考) GDP成長率 (政府経済見通し)

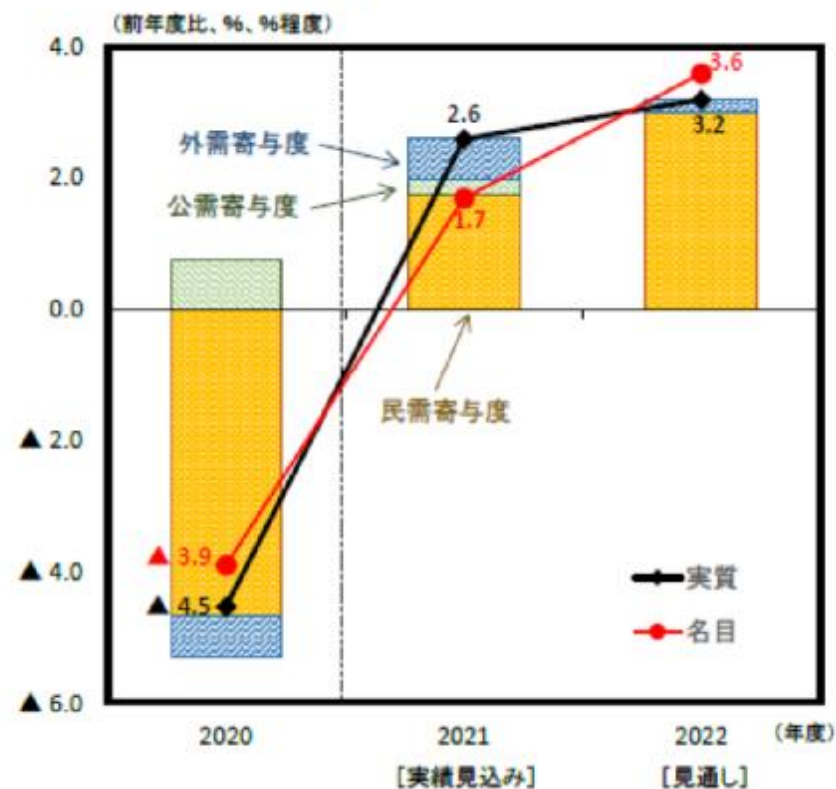
- 2021年度(令和3年度)のGDP成長率は、**実質で2.6%程度、名目で1.7%程度**となり、GDPは**年度中にコロナ前の水準を回復**することが見込まれる。
- 2022年度(令和4年度)は、経済対策を迅速かつ着実に実施すること等により、GDP成長率は**実質で3.2%程度、名目で3.6%程度**となり、GDPは**過去最高**となること見込まれる。公的支出による経済下支えの下、消費の回復や堅調な設備投資に牽引される形で、**民需主導の自律的な成長と「成長と分配の好循環」の実現に向けて着実に前進**。

(内閣府「令和4年度(2022年度)政府経済見通し」)

○主要経済指標

	令和2年度 (2020年度) 実績 (%)	令和3年度 (2021年度) 実績見込み (%程度)	令和4年度 (2022年度) 見通し (%程度)
実質GDP	▲ 4.5 525.7兆円	2.6 539.3兆円	3.2 556.8兆円
民間消費	▲ 5.5	2.5	4.0
民間企業設備	▲ 7.5	2.5	5.1
政府支出	3.0	0.9	0.1
内需寄与度	▲ 3.9	2.0	3.0
民需寄与度	▲ 4.7	1.7	3.0
公需寄与度	0.8	0.2	0.0
外需寄与度	▲ 0.7	0.6	0.2
名目GDP	▲ 3.9 535.5兆円	1.7 544.9兆円	3.6 564.6兆円
GDPデフレーター	0.7	▲ 0.8	0.4
消費者物価(総合)	▲ 0.2	▲ 0.1	0.9
完全失業率	2.9	2.8	2.4

○GDP成長率と寄与度

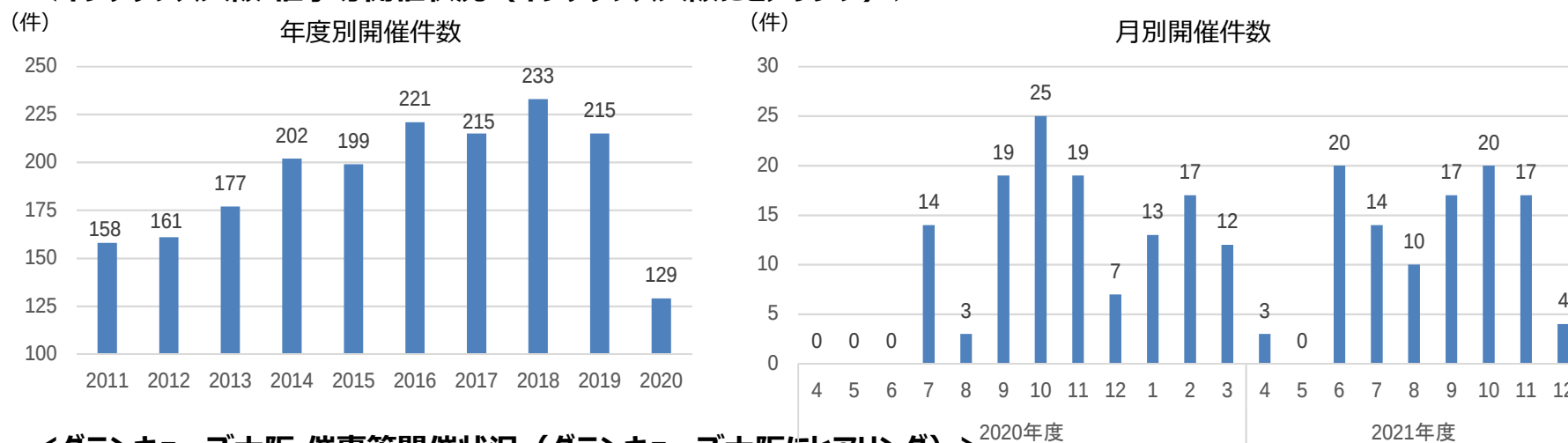


出典：内閣府「令和4年度(2022年度)政府経済見通し」

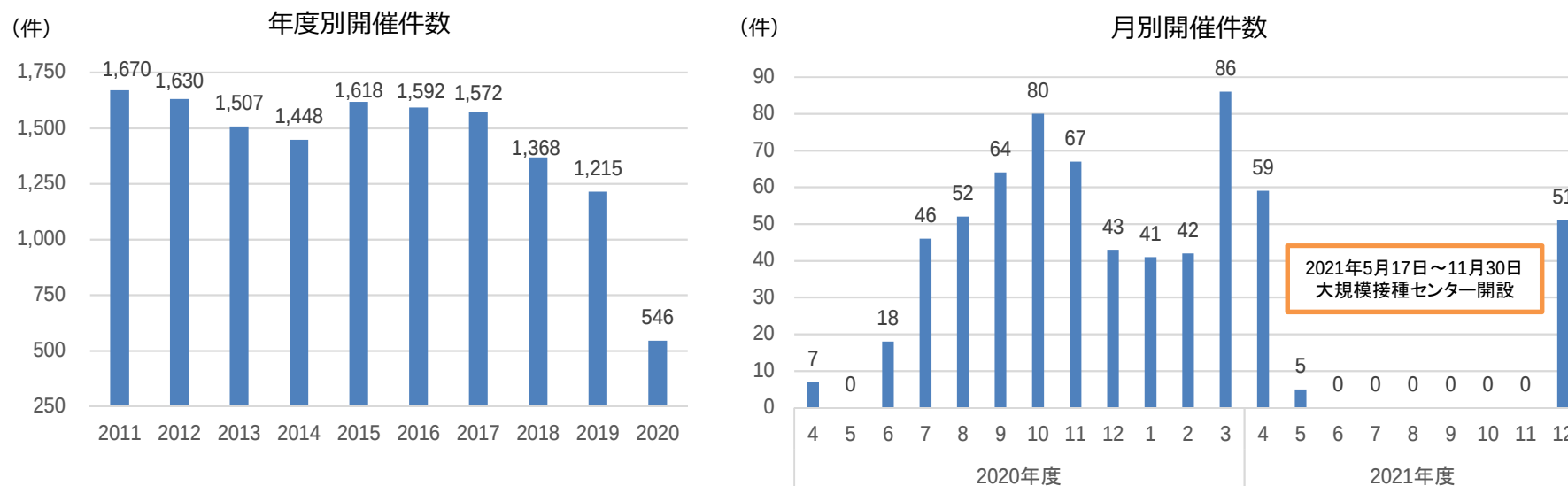
(参考) MICE関連施設（インテックス大阪、グランキューブ大阪）における催事等開催状況

- 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う大型イベント開催自粛要請を契機に、大小を問わず多くのMICE案件が中止・延期となった。
- インテックス大阪やグランキューブ大阪では、緊急事態宣言期間前後に催事等開催件数が0となるなど、大きな影響を受けている。

＜インテックス大阪 催事等開催状況（インテックス大阪にヒアリング）＞



＜グランキューブ大阪 催事等開催状況（グランキューブ大阪にヒアリング）＞



(参考) シンクタンク等による大阪のポジション分析

- シンクタンク等による大阪のポジション、強い分野、今後の方向性等の分析を整理
- 総合的な評価では48都市中36位。比較的優位なものは、「研究・開発」、「文化・交流」、「居住」の指標

(世界の都市総合ランキング2021 (森記念財団都市戦略研究所))

「世界の都市総合ランキング 2021」(森記念財団都市戦略研究所)

【総合ランキング2021】

		2021	前年からの変動	2020	2019
総合ランキング		36位	▲ 3	33位	29位
分野別	経 済	37位	+ 1	38位	35位
	研究・開発	18位	—	18位	17位
	文化・交流	20位	+ 1	21位	19位
	居 住	21位	▲ 3	18位	13位
	環 境	42位	▲ 1	41位	36位
	交通・アクセス	39位	▲ 4	35位	35位

1位 ロンドン	21位 チューリッヒ	41位 テルアビブ
2位 ニューヨーク	22位 スtockホルム	42位 福岡
3位 東京	23位 サンフランシスコ	43位 サンパウロ
4位 パリ	24位 ブリュッセル	44位 メキシコシティ
5位 シンガポール	25位 フランクフルト	45位 ジャカルタ
6位 アムステルダム	26位 シカゴ	46位 カイロ
7位 ベルリン	27位 ボストン	47位 ヨハネスブルグ
8位 ソウル	28位 ダブリン	48位 ムンバイ
9位 マドリード	29位 バンクーバー	
10位 上海	30位 ヘルシンキ	
11位メルボルン	31位 ジェネバ	
12位 シドニー	32位 モスクワ	
13位 香港	33位 ミラノ	
14位 ドバイ	34位 イスタンブール	
15位 コペンハーゲン	35位 バンコク	
16位 ロスアンゼルス	36位 大阪	
17位 北京	37位 ワシントンDC	
18位 バルセロナ	38位 台北	
19位 ウィーン	39位 クアラルンプール	
20位 トロント	40位 ブエノスアイレス	



出典：第2回「副首都ビジョン」のバージョンアップに向けた意見交換会（2022.1.20）資料より転載

(参考) シンクタンク等による大阪のポジション分析（個別分野の視点からの分析）

世界で最も住みやすい都市ランキング 2021 ※英誌「エコノミスト」	世界の都市の安全指数ランキング2021 ※英誌「エコノミスト」	世界で最も魅力的な都市ランキング 2021 ※米誌「コンデナンス・トラベラー」																																																																						
・前回4位から上昇、安定性、医療、インフラにおいて高評価	・前回3位、医療インフラ、インフラの安全性は高評価、個人の安全性やサイバーセキュリティ面はやや低評価	・米国を除く世界の大都市部門において2位（昨年ランク外）																																																																						
<table><tr><th>順位</th><th>都 市</th></tr><tr><td>1 位</td><td>オークランド</td></tr><tr><td>2 位</td><td>大阪</td></tr><tr><td>3 位</td><td>アデレード</td></tr><tr><td>4 位</td><td>ウェリントン</td></tr><tr><td>5 位</td><td>東京</td></tr><tr><td>6 位</td><td>パース</td></tr><tr><td>7 位</td><td>チューリッヒ</td></tr><tr><td>8 位</td><td>ジュネーブ</td></tr><tr><td>9 位</td><td>メルボルン</td></tr><tr><td>10位</td><td>ブリスベン</td></tr></table>	順位	都 市	1 位	オークランド	2 位	大阪	3 位	アデレード	4 位	ウェリントン	5 位	東京	6 位	パース	7 位	チューリッヒ	8 位	ジュネーブ	9 位	メルボルン	10位	ブリスベン	<table><tr><th>順位</th><th>都 市</th></tr><tr><td>1 位</td><td>コペンハーゲン</td></tr><tr><td>2 位</td><td>トロント</td></tr><tr><td>3 位</td><td>シンガポール</td></tr><tr><td>4 位</td><td>シドニー</td></tr><tr><td>5 位</td><td>東京</td></tr><tr><td>6 位</td><td>アムステルダム</td></tr><tr><td>7 位</td><td>ウェリントン</td></tr><tr><td>8 位</td><td>香港</td></tr><tr><td>9 位</td><td>メルボルン</td></tr><tr><td>10位</td><td>ストックホルム</td></tr><tr><td>⋮</td><td>⋮</td></tr><tr><td>17位</td><td>大阪</td></tr></table>	順位	都 市	1 位	コペンハーゲン	2 位	トロント	3 位	シンガポール	4 位	シドニー	5 位	東京	6 位	アムステルダム	7 位	ウェリントン	8 位	香港	9 位	メルボルン	10位	ストックホルム	⋮	⋮	17位	大阪	<table><tr><th>順位</th><th>都 市</th></tr><tr><td>1 位</td><td>東京</td></tr><tr><td>2 位</td><td>大阪</td></tr><tr><td>3 位</td><td>京都</td></tr><tr><td>4 位</td><td>シンガポール</td></tr><tr><td>5 位</td><td>イスタンブール</td></tr><tr><td>6 位</td><td>メリダ（メキシコ）</td></tr><tr><td>7 位</td><td>マラケシュ（モロッコ）</td></tr><tr><td>8 位</td><td>ポルト（ポルトガル）</td></tr><tr><td>9 位</td><td>バンコク</td></tr><tr><td>10位</td><td>ソウル</td></tr></table>	順位	都 市	1 位	東京	2 位	大阪	3 位	京都	4 位	シンガポール	5 位	イスタンブール	6 位	メリダ（メキシコ）	7 位	マラケシュ（モロッコ）	8 位	ポルト（ポルトガル）	9 位	バンコク	10位	ソウル
順位	都 市																																																																							
1 位	オークランド																																																																							
2 位	大阪																																																																							
3 位	アデレード																																																																							
4 位	ウェリントン																																																																							
5 位	東京																																																																							
6 位	パース																																																																							
7 位	チューリッヒ																																																																							
8 位	ジュネーブ																																																																							
9 位	メルボルン																																																																							
10位	ブリスベン																																																																							
順位	都 市																																																																							
1 位	コペンハーゲン																																																																							
2 位	トロント																																																																							
3 位	シンガポール																																																																							
4 位	シドニー																																																																							
5 位	東京																																																																							
6 位	アムステルダム																																																																							
7 位	ウェリントン																																																																							
8 位	香港																																																																							
9 位	メルボルン																																																																							
10位	ストックホルム																																																																							
⋮	⋮																																																																							
17位	大阪																																																																							
順位	都 市																																																																							
1 位	東京																																																																							
2 位	大阪																																																																							
3 位	京都																																																																							
4 位	シンガポール																																																																							
5 位	イスタンブール																																																																							
6 位	メリダ（メキシコ）																																																																							
7 位	マラケシュ（モロッコ）																																																																							
8 位	ポルト（ポルトガル）																																																																							
9 位	バンコク																																																																							
10位	ソウル																																																																							

出典：第2回「副首都ビジョン」のバージョンアップに向けた意見交換会（2022.1.20）資料より転載

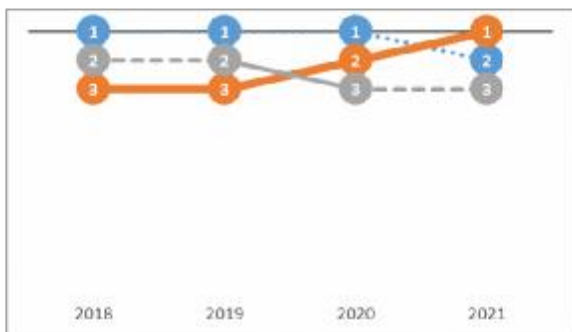
(参考) 国内の都市ランキング (日本の都市特性評価)

- 森記念財団都市戦略研究所による「日本の都市特性評価2021 (国内都市ランキング)」で、東京を除く国内138主要都市の中で、大阪市が総合1位にランクイン
- 「経済・ビジネス」、「研究・開発」、「文化・交流」、「交通・アクセス」の4つの分野で高い評価を得た

■ 2021年のトップ5

総合 順位	総合ランキング		経済・ ビジネス		研究・開発		文化・交流		生活・居住		環境		交通・ アクセス	
	都市名	スコア	分野 順位	スコア	分野 順位	スコア	分野 順位	スコア	分野 順位	スコア	分野 順位	スコア	分野 順位	スコア
1位	大阪市	1224.8	1位	268.1	4位	70.1	2位	287.5	69位	293.1	80位未満		1位	214.5
2位	京都市	1173.2	30位	162.0	2位	94.5	1位	334.2	59位	296.3	80位未満		6位	158.6
3位	福岡市	1147.0	5位	201.2	6位	66.5	5位	199.6	1位	353.1	63位	148.5	3位	178.1
4位	横浜市	1120.8	6位	195.7	5位	68.0	3位	257.9	45位	303.2	80位未満		4位	162.4
5位	名古屋市	1116.3	4位	207.9	1位	108.8	7位	170.7	17位	321.8	80位未満		2位	181.7

■ ランキング年次推移 (上位3都市)



■ 「日本の都市特性評価 (国内都市ランキング)」とは

- 一般社団法人 森記念財団 都市戦略研究所が、国内都市の総合力を毎年度評価し、公表 (最新版は2021年版)
- 対象都市は、東京を除く国内138の主要都市。(対象都市：政令指定都市、県庁所在地、人口17万人以上の都市) ※東京23区は別途評価
- 6分野、26指標グループで評価しており、総指標数は86

出典：第2回「副首都ビジョン」のバージョンアップに向けた意見交換会 (2022.1.20) 資料より転載

(参考) ワクチン接種の状況

- 2021年4月からワクチン接種を開始し、2回目の接種率については、全年齢で約8割、高齢者で約9割となっている。
- 2021年12月から3回目接種が開始されている。

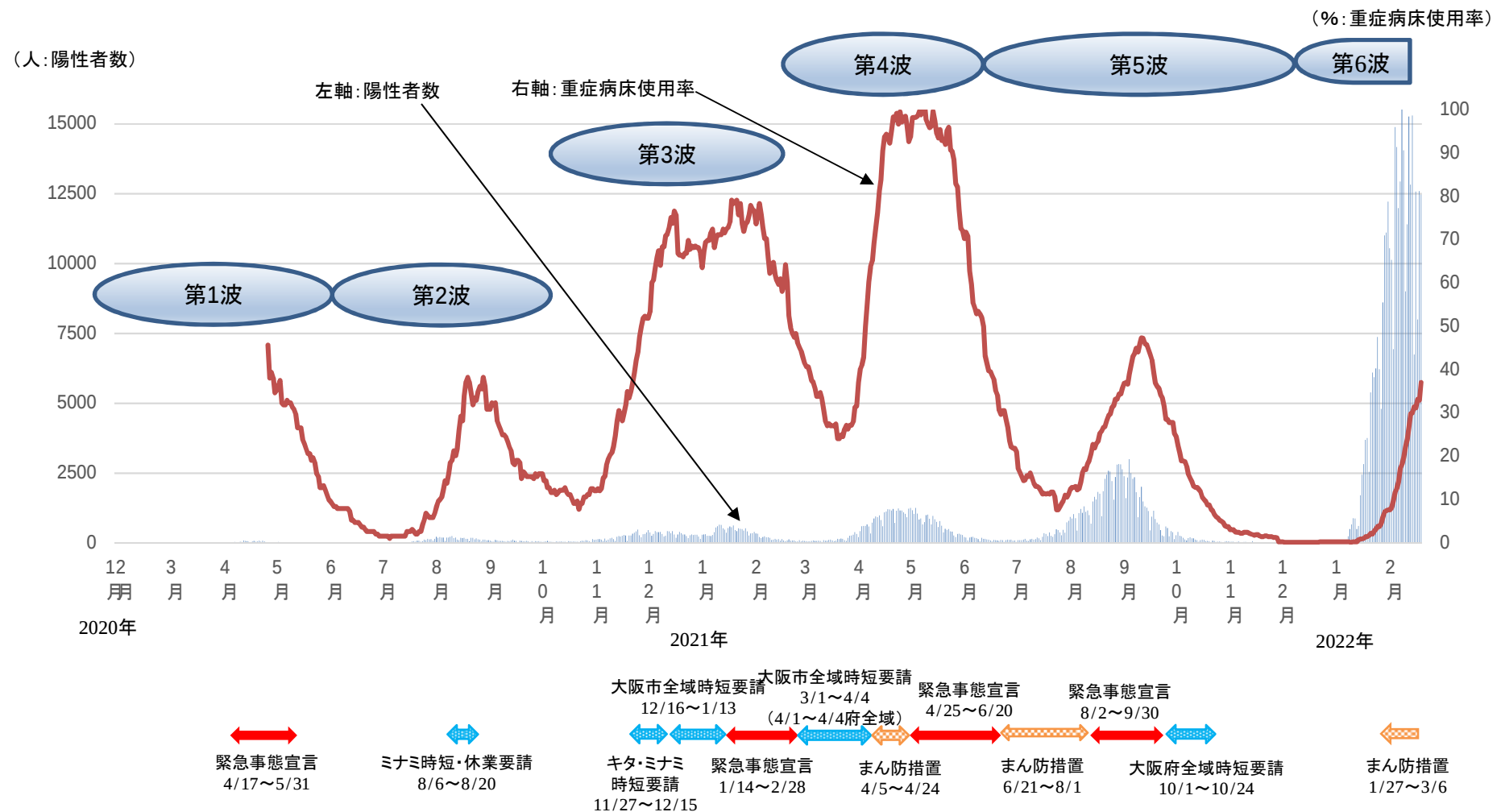
大阪府 (2月13日時点)	全 体		うち高齢者（65歳以上）	
	回 数	接種率 (うち12歳以上)	回 数	接種率
合 計	14,220,084	—	4,956,632	—
1 回接種者	6,773,882	76.6% (84.6%)	2,213,534	92.8%
2 回接種者	6,719,004	76.0% (83.9%)	2,205,937	92.5%
3 回接種者	727,198	8.2% (9.1%)	537,161	22.5%

全 国 (2月14日時点)	全 体		うち高齢者（65歳以上）	
	回 数	接種率 (うち12歳以上)	回 数	接種率
合 計	214,571,982	—	66,165,492	—
1 回接種者	101,530,485	80.2% (87.1%)	33,142,954	92.7%
2 回接種者	100,011,378	79.0% (86.5%)	33,022,538	92.3%
3 回接種者	13,030,119	10.3%		

出典：大阪府「ワクチン接種状況等について」、首相官邸「新型コロナワクチンについて」より作成

(参考) 大阪府 新規陽性者数と重症病床使用率の推移

- 一昨年来、繰り返し新型コロナウイルス感染症が拡大し、休業や営業時間短縮などを要請。
- 新たな変異株「オミクロン株」の感染急拡大により、**2022年1月以降**、新規陽性者数が急速に増加。



出典：大阪府「新型コロナウイルス感染症対策サイト」より作成